

# 連鎖

2016年10月26日

前回のブログを眺めていて気付きました。（レイアウトはPC版）

タイトルのカワイイ麦藁の少年（ハイ、ワタクシですw）は81年夏休みの撮影だとわかります。

FUJICOLOR∞81



FUJICOLOR CD 81

GIWAのMacで書くブログ（改）

ソラカ（カツツケも大好き）なヘラワキ作者（大昔遊びで）が、ヘラブナのワセビアで何をかくほんのMacで書く

検索

へら釣り専科・・・当時の雑誌媒体全てに気を使ったかのようなら

タイトル（笑）

2016年10月22日

16年10月 >>

水	木	金	土
1	2	3	4
5	6	7	8
12	13	14	15
19	20	21	22
26	27	28	29

ネットをプラプラしていて偶然に見つけました。感動モノです。

テキストは電子化して所有していますが、肝心な動画とは26年ぶりの再会。



・当時の雑誌媒体全てに気

タイトル（笑）

E

小5の夏休みで、もうすぐ11歳になろうとしている頃です。

で、下のちょっとコワモテのおじさんは、90年の番組をキャプチャしたものですから、カワイイ少年が9年後に、この番組に釘付けになっていたことになります。たった9年すけど、少年は二十歳になって成人しちゃうぞって状況なんですね。若い頃の成長スピードはハンパないです（外見のみw）

## バックトゥザヘラ

高校卒業後、雀荘に入り浸って浪人生なんだかプロ雀士を目指してるんだか良くわからなかったクソガキな時分、自身の麻雀のセンスの無さにはそろそろ気付いており、このままじゃヤベェ！、な自分探しのニーチャンが、とりあえず多摩川に向かうには充分な動機付けに、この番組はなりました。

来る日も来る日も多摩川通いは続きました。

僕にとって多摩川での釣りは、何の色気もなくただの逃避だったワケです。小学生の頃に使っていた道具で、充分に楽しめましたが、イイ若いもんが仕事もせずにプラプラ釣りしてるわけですから、地元のヌシの目に留まるには時間はかかりませんね（笑）

先輩方のご厚意で、あっという間にそれらしい雰囲気になっていきました。竿掛けや万力、玉枠なんかも戴いてしまい、思い切ってサオやウキを新調するまでにさして時間はかからなかったように思います。ときわのローンね（笑）アルバイトはしてたんでしょうね。もしかすると雀荘時代のデータラメな生活で生じた借金を返す際、寝ずに働いて得た余剰金をはたいたか。。

となると、多摩川べりに10年ぶりくらいに降り立った時、僕の万力は鉄マンだったのか？もう、全く思い出せません。歳とったなあ。。。ウキは間違いなくブランコ付きでしたけどね。後に多摩川に浮かべた新品のウキは、一峰でした。ワケわからへないから贅沢過ぎ（笑）

長い間、競技の世界があるなんて知らなかった僕は、不思議なご縁がご縁を呼び、気付いたらこんな写真を撮ることになりました。



神流湖でのスナップですね。日研行事。たぶん、92年、いや93年でしょうか。

いずれにしても、佐藤御大とはテレビでの初対面から2年後には出会ってしまいます。全く偶然に、です。

### いろいろカン違い

先輩からゲスト参加で来いよと誘われ、行った先がゴールデンクラブだった、という。憧れながらも畏れ多くて参加できない方も多かったと聞きます。伝説のデの字も知らない若造が、

「どこかで見たことある人が居るナ～」

レベルの認識でゲスト参加して良いクラブじゃなかったんですよね。いやもちろん、遊びなんで何言ってんの？って話は置いといて。

壮大なストーリーを意識したのは、その帰りの車中でした。

「あ！ テレビ講師だけじゃなくて、雑誌でちょっと知ってるハヤちゃんもハルちゃんも居たじゃん！！！」

みたいな（笑）。

その時も、同乗の福本さんや富永さんにはまだ気付いてないってんですから大変に失礼な話ですが、ヘラ釣りとの再会は運命だと勘違いするのに充分な展開でした。僕はなんの結果も残せてないんですけどね。

その後、一旦ヘラから去ります。夢から醒めてサラリーマンになっていた、佐藤会長と出会ってからの10年後、気付けばパパにもなっていました。でもヘラは捨てきれずに新しい連載がスタートします。2002年のことです。釣りそのものよりも、書くことが面白くなってしまった僕は、長男とはほとんど遊んであげなかっただけですね。このへんの葛藤は連載にもけっこう書きましたが、家族にしてみればポーズ、自分にとってはオナニーでしかないんですよ。女房からすれば、カクのも釣りです。釣り憎し。結婚前は二人であちこち釣り歩いたんですが、ヘラ人口を一人減らしてしまいました。って反省点ソコオ？

### ゴートウヘル

冗談抜き、二度と戻らない時間の中で、家族との時間よりも「釣り≒自分」を大事に生きてしまいました。その事実は消えません。

(観念的なものとして、家族を大切に思っていることはアタリマエですが、アクションが伴わない)

が！ここまで来たら引けるか！息子たちも、そういう人生を送れよ、と（笑）人生一回きりだぞw



↑ 取材で使い切れなかったウドンで遊ぶ長男。

↓ 長男へのスバルタ教育は、見事に失敗。近所の鶴見川でアタリデコじゃ無理だよな。。。。



（長男にとって僕は、ただ怒鳴りつけるだけの気分屋オヤジでしかない。生まれ変わったら良い親になるから許せ。）

次男もなつっちゃいませんがw今夏のスナップがコレ。

狙っちゃいなかったけど、いろいろストーリーが詰まってるワケですよ。僕にとっちゃね。



佐藤会長に見せたかったなあ。

ま、会員として見送ってない僕に言う権利はないんですけどね。

ブログタイトルの少年が35年後に、こういう写真を撮ることになります。

少年とほぼ同じ年頃の息子の。

佐藤会長と出会う9年前のストローハット、佐藤会長没後9年になろうとする時代のストローハット。

ちょっと強引なようですが、面識もない次男の写真に北斗のネーム、佐藤会長の足跡がしっかりと書き込んでいるんですよ。歴史の不思議さを感じずにはいられません。

人の一生は儂い。でも、受け継がれるものもある。どこかでそう信じてなきゃ、人生やってらんないでしょ。アホくさくて。もちろん、カネとかじゃダメですよ。貧乏人に見ることが出来ない夢はダメ、ってんじゃなくてね（笑）

偉人たちがどれだけ考えても答えの出ない「人生の意味」を、後世に先送りするというのは、人類の偉大な知恵だと思います。

「どうせ死ぬんだしw」

みたいな物言いは僕も良くしますし、事実であるとも言えますが、みんながみんな刹那的に生きちゃったら無秩序な社会になってしまうワケで、「そんなのカンケーねえ！」で生きられる「ヤカラ」もまた、一握りなんですよね。

連鎖というと、自らの意志で解くことが出来ない負の鎖ってイメージが僕にとっては強いんですが、伝承という積極的な言葉ではなく、自然に受け継がれるもの、というニュアンスでタイトルにしました。誤用かもしれませんのが、まぁそういうことです（笑）

イイんですよ別にw断ち切れない鎖でもww

そういうものに、ヘラをしなけりゃならんのでしょ？絶滅寸前の遊びにうつつを抜かす我々ヘラ師は。

## この記事へのコメント

伊豫田 英人 (yurie)

当時私はアユ釣りをしていましたので御大の名は存知あげませんでした。

淡水系の釣りの最後に残ったのがこの釣りでした。

浜松の単身赴任時代、立ち寄った野池でこの釣りに魅入られましたね。

師匠が居ないと会得が難しいこの釣りですが良き師匠連に出会い現在に至っています。

江成さんも伝説の人物との出会いも有り、益々熱中してしまったのでしょう！

釣りと云う遊びはそれほど魔力を持っている物なのですね。

家庭を顧みないで釣行・・・。身につまされる思いです。

ナリーズ頑張ってください。

2016年10月26日 16:08

---

えなり

コメントありがとうございます。

夢中でやりましたねぇ。。なんでも熱くなりやすいタイプが災いしました。家族には寂しい思いをさせましたが、まぁ、もう手遅れなので、プレないで遊ぼうと思っていますo(^\_^;)

2016年10月26日 18:44

---